

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

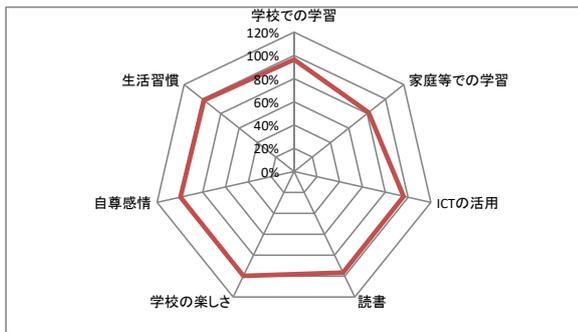
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「書くこと」領域は、全国平均正答率をわずかに上回っていたが、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域では全国平均正答率を下回っていた。問題形式では、選択式・短答式の問題において平均正答率が下回っており、記述式はやや高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基にとらえる問題はよくできている。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は全国平均正答率を下回っており、努力が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のいずれも全国平均正答率を下回っていた。問題形式では、選択式・短答式・記述式いずれも全国平均正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題は比較的よくできている。	
	努力が必要な問題	二つの数の最小公倍数を求める問題は全国平均正答率を下回っており、努力が必要である。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域のいずれも全国平均正答率を下回っていた。問題形式では、選択式・短答式・記述式いずれも全国平均正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解する問題はよくできている。	
	努力が必要な問題	メスシリンダーという器具を理解する問題は全国平均正答率を下回っており、努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○「家庭での学習習慣」は全国平均よりも下回っているものの、昨年度と比較して、平日の家庭学習の時間の伸びが見られる。	
○「生活習慣」「自尊感情」「学校の楽しさ」については、全国平均と同程度となった。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」という項目においては全国平均を上回っている。	
○「学校での学習」「ICTの活用」「読書」はわずかに全国平均を下回っている。「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」は全国平均を上回っていた。一方で、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という項目では全国平均を下回っていた。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○スクールプラン、児童の実態や授業改善に向けた課題をもとに学年プランを作成し、学力向上や授業力向上につながる授業づくりや共同体感覚を育むための取組を行う。 ○「令和3年度版『学び合い』マニュアル」をもとに落ち着いた学級づくりや授業づくりを行う。 ○朝の活動の時間(ドリルタイム、読書タイム、音読暗唱など)を全校一斉に実施し、その定着を図る。 ○毎週火曜日と金曜日の放課後に全校で補充・補習の時間に取り組む。また学力定着サポートシステムの基礎・基本定着問題や診断問題等の積極的な活用を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の時間やその取り組み方について、家庭学習チャレンジハンドブックなどを有効に活用して指導していくとともに、学級懇談会や個人懇談会、学校だよりや学年だより等を通して家庭学習の大切さを保護者へ啓発していく。 ○PTAと連携し、家庭読書の日、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施や、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間について積極的に啓発を行う。 ○中学校区で家庭学習や生活習慣等についての情報交換を行い、中学校区における統一の生活習慣や学習習慣に関するきまりを作成する。
--